



年 組 名前 _____

道新でワークシート

昨年7月に世界文化遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」の一つ、千歳市のキウス周堤墓群について、千歳市教委は新年度、2025年度の完成を目指し、案内施設と見学園路の整備に着手する。キウスは遺跡群を構成する17遺跡の中でも保存状態が良いとされるものの、展示方法やPRなどに課題があった。登録を機に地域住民の関心も高まっているとは言いがたい。市など関係者には施設整備だけでなく、その価値を市内外に発信していく努力が求められる。

周堤墓群は、土を環状に盛った周堤の内側に墓穴を掘つた北海道に点在する集団墓で、縄文時代後期（約3200年前）に造られた。中でもキウスは直径19～83mの大規模な周堤墓が9基集まっていることが特徴。北大大学院の高瀬克範教授（考古學）は「これまでほとんど調査されていないこともあり、手つかずのまま将来に残せる部分が多く貴重」と注目する。

世界文化遺産の登録効果は大きい。新型コロナウイルス下でも、キウスの昨年4～12月の来場者は6173人と前年同期の2・3倍に増加。昨年11月に訪れた埼玉県の会社員 A さんは「森の中で縄文の雰囲気を感じた。でも、展示方法を工夫しないと、内容はよく分からぬ」とこぼした。

その言葉通り、現在キウスには解説看板と、資料パネル

キウス周堤墓群でガイドの説明を聞く地元の小学生たち。
地域住民に価値を知らせる工夫が求められる（昨年7月）



を展示する仮設のプレハブ施設があるだけで、案内は約40人が登録するボランティアガイド頼み。冬季にはキウス自体が閉鎖している。

こうした中、千歳市教委は新年度、施設整備に着手。ガイダンス施設は平屋建て200平方㍍規模で、土器や石棒などの出土品や史跡のジオラマ模型の展示を想定する。見

一長は「専門家と協議し、整備と保全との両立を慎重に進める」と話す。ただ、課題は山積する。まずキウスにつながる公共交通機関がないこと。千歳市中心部から10㌔、出土品を展示する市埋蔵文化財センターと6㌔離れている。昨年8～12月には現状改善を探る取り組みもあった。市教委と地元の貸し切りバス会社は、キウスと市中心部、同センターなどをバスで巡る実証運行やツアーバスを実施。利用者には好評で、両者ともキウスを利用した企画に意欲を見せており、今後の進展が期待される。

地域住民の関心が高まらない現実もある。「世界文化遺産の登録後も見学者は市外の人々が大半で、地元の人には知られていない」。ボランティアガイドを育成する市民有志「キウス周堤墓群を守り活かす会」の大江晃二会長（80）は

住民関心高め価値発信を



千歳支局
なかがわ
中川
なぎさ
渚

千歳キウス周堤墓群 整備へ

記者の
視点

2022年2月27日（日）朝刊 全道版 6ページ（記事は再編集しています）

①周堤墓群とは、どのようなものか、答えなさい。

②これから施設整備が行われていくキウス周堤墓群は、どのような課題があるか答えなさい。

③あなたは、「キウス周堤墓群」の価値をどのように発信していけばよいと考えますか。